



トピックス

木の良さを伝えよう!

●会津田島駅に新「ほっと」スペース誕生!

県産材を使った木製の商品ラックの贈呈式が10月23日に会津田島駅で行われました。

これは木の良さを身近に感じてもらうため森林環境税を活用し公共施設に木製品を設置する新ほっとスペース創出事業の一環で実施したもので、田島高校の生徒が制作に関わった木製ラック3台が会津鉄道に寄贈されました。

式では、田島高校の星亮太君が「多くの人に木の良さを伝えられるよう大切にしてください」と挨拶し、南会津農林事務所長から会津鉄道の大石社長に目録が、また、会津鉄道からは田島高校に感謝状が贈られました。

木製ラックは駅売店「やまびこ」に設置されています。是非お立ち寄りの上、県産材の良さを感じてみてください。



ほっとする木のぬくもりを伝えます

《 目 次 》

- トピックス
 - ・木の良さを伝えよう!
 - ・有限会社伊南の郷が第54回福島県農業賞を受賞!
 - ・おいしい ふくしま いただきます! 秋キャンペーン開催!
 - ・「探ろう!! 清流の郷 田部」開催
 - ・南会津産材の安定供給を目指して!
 - ・第5回南会津新そばまつり開催
 - ・南会津ふるさとワークステイを実施
 - ・森林で育む未来への絆
 - ・JA農産物品評会開催される!
 - ・企画力向上研修会を開催
 - ・平成25年度食のものづくり応援事業
 - ・今の福島を見に行くモニターツアーを開催
- コラム
 - ・知っておきたい食品の表示③生鮮食品 豆類編
 - ・イノシシの常識・非常識
- 農林事務所からのお知らせ
 - ・農業短期大学校就農準備研修のお知らせ
 - ・新「エコファーマー」マークでPR
 - ・米の全量全袋検査に御協力いただきありがとうございました。

平成25年12月24日発行 福島県南会津農林事務所

●木でつくろう! ふれあい出前講座開催

11月12日、南会津町立館岩小学校で木とのふれあい創出事業による出前講座が行われ、5、6年生27人が木工工作に挑戦しました。

これは森林や林業、木材について次代を担う子供たちに楽しく学んでもらうため、森林環境



税を活用して開講したものです。

講座では館岩村森林組合の鈴木秀明さんから、木材や南会津の森林・林業について学んだ後、地元の大工さんである星清信さん指導のもと木製の本立てを全員でつくりました。

子供たちからは「木の大切さや使われ方が分かった」などの感想が聞かれました。また、星さんからは「将来本立てをみて、今日のことを思い出してもらえれば嬉しいです」との言葉が贈られました。(森林林業部)

有限会社 伊南の郷が 第54回福島県農業賞を受賞!

9月10日に福島市の杉妻会館において、第54回福島県農業賞表彰式が行われ、南会津町の「有限会社 伊南の郷(岡本寛司代表取締役)」が農業経営改善部門を受賞されました。同町伊南地区(旧伊南村含む)では初の受賞です。

伊南の郷は、基盤整備事業で建設された穀類乾燥調製施設や水稻育苗ハウスの指定管理者として、伊南地区の水稻やソバを広域的に受託する担い手であり、地区における水稻苗の約8割を供給しています。

また、安定経営を目指し、ミニトマトを中心とした野菜類、栽培キノコ類、野菜苗生産、及び農業体験学習受け入れなど、経営の多様化や周年化を図っています。

受賞に際し、条件不利地も積極的に受託するなど地元を大切にする営農姿勢や苗供給などで地域農業の基盤を支えていること、及びキノコ栽培による冬場の雇用確保などの、地域貢献面も大いに評価されました。

受賞を契機とし、今後益々の御発展をお祈りいたします。
(農業振興普及部)



知事より表彰を受ける(有)伊南の郷 岡本代表

おいしい ふくしま いただきます! 秋キャンペーン開催!

福島県産農林水産物への風評の払拭と消費拡大を目的として「おいしい ふくしま いただきます!」秋キャンペーンを10月30日に大内宿にて開催しました。

今年度最後となる今回は、リンゴ、新そば、新米の美味しさや安全性をPRしました。リンゴは、様々な品種が栽培されている当地方の特徴をPRするため、10月末が旬の3品種(ひめかみ、新世界、シナノスイート)の食べ比べ・アンケートを行い、回答者にはリンゴをプレゼントしました。新そばは「会津のかおり」を用いたそばガレットの試食、石臼でのそば挽きの体験を行いました。新米は只見町産の「天のつぶ」の試食を提供しました。

400名近いお客様が参加され、リンゴ、新そば、新米等の南会津地方の秋の味覚を堪能いただきました。

また、お客様からは、「福島県では食品の

放射性物質検査をしっかりとしていると聞いているのであまり気にしていない。」との声が聞かれました。県では、引き続き農林水産物のPR活動、消費の拡大と風評の払拭に努めて参ります。
(企画部)



たくさんのお客様にご参加いただきました

「探ろう!! 清流の郷 田部」開催

10月5日に、南会津町田部地区において、田部環境保全会主催による「農業水利施設管理強化イベント」を開催しました。

当地区は清く澄んでいる水無川流域に位置しており、標題の「清流の郷」を体感できます。清流の恩恵もあり、米やアスパラガス等の生産が盛んな地域です。

参加者にはウォーキングとともに、水路にある坂道の謎、普段渡ることのない水路橋等9つのチェックポイントを巡っていただきました。これらを通じて、身近にある水路の構造や重要性について理解を深めていただきました。さらに、水路にまつわる石積みや堰神様から見えてくる地元の歴史を探求し、先人の努力や苦勞について思いを馳せました。

また、地区の集落排水施設では、生活雑排水の処理工程を見学することができ、普段何気なく利用している水について関心が高まったようです。

最後に、地元の方々の協力でリンゴ狩りや



水路の構造を観察する参加者

豚汁等の振る舞いがあり、おいしく楽しく学べるイベントになりました。

農業水利施設は、適切に管理し良好な状態で長期的に利用することが重要です。このことについて周知を図るために、今後も、施設の重要性や適切な管理方法等への理解を深める活動を継続していきます。（農村整備部）

南会津産材の安定供給を目指して！

第6回復興支援「南会津産木材市」が、郡内素材生産業者等で組織する南会津地方木材安定供給連絡会議の主催により、10月18日から10月25日にかけて南会津町のだいくらスキー場駐車場の土場に開設されました。

地元産のカラマツやスギのほか、クリ等の広葉樹も出材され、900^mの目標に対し1,404^mと春の2倍の材が集まりました。10月17日にはだいくら土場で造材研修会も行われ、造材技術を高め、より良い木材を供給するため、約40名の参加者が熱心に講師の話に耳を傾けていました。

今後とも南会津産材が県内外で復興住宅等に広く利用されるよう、出材者同士の連携を図り、地元材の安定供給を目指していきたいと考えています。（森林林業部）



講師の説明に熱心に耳を傾ける参加者

第5回南会津新そばまつり開催

10月13～14日に南会津新そばまつり実行委員会主催の「第5回南会津新そばまつり」が南会津町の御蔵入交流館で開催され、南会津町や下郷町、小野町から出展した6店が、こだわりの技によるそばを提供しました。

また、昨年に引き続き、同時開催となった「元気です！南会津都市交流フェスタ」のブースでは、地場製品の販売や子供歌舞伎などの野外ステージのほか、全県的なイベントである「スマイルキャラバン」による展示ブースやキッズコーナーなど、多彩な催しが

行われました。

今年はCMでの告知や関東方面からのツアーも生まれ、昨年の7,800食を大きく上回る8,800食の実績を上げたほか、地場産品販売コーナーでも多くのお客様で賑わいました。

来年度以降も継続して実施し、多くの団体に参加いただき、南会津の元気を県内外に発信する総合的なイベントに育てていきたいと考えています。（農業振興普及部）



新そばを味わうお客様

南会津ふるさとワークステイを実施

当事務所では、新規就農や定住・二地域居住を推進するために、南会津ふるさとワークステイ事業を実施しています。

南会津ふるさとワークステイとは、農林業や農山村の暮らしに関心のある人が、宿や食事を提供してもらい代わりに、農家や林家の仕事を手伝い、農林業に関する理解を深める取り組みです。

今年度は、7月20日から11月30日の期間で参加者募集を行い、大学生や会社員の方など8名の方々に参加いただきました。作業内容は、南郷トマトをはじめとした野菜の収穫・出荷作業や、カラーの球根掘り起し作業、ハウスの片づけ作業など、受入農家が行う多様な作業のお手伝いをしていただきました。

参加者からは、「受入農家の方から、農作業の進め方はもちろん、農業や生産野菜に対する思いを聞くことのできる貴重な機会だった」との感想もあり、各参加者・受入農家の方々にとって有意義な受け入れとなりました。

（企画部）



収穫作業を手伝う参加者

森林で育む未来への絆

●みんなで拾ったドングリ大きく育て！

11月9日、第11回うつくしま育樹祭が同実行委員会の主催により須賀川市の未来博記念の森で開催され、約320人が参加して育樹活動を行ったほか、県内で集められたドングリから育てた苗木の記念植樹が併せて行われました。

この苗木は、全国植樹祭の併催行事「とうほくとっとり・森の里親プロジェクト」により、福島県で採取した種を鳥取県の小学生や苗木生産者の皆さんが育てたもので、鳥取県知事や緑の少年団「美鳥（みどり）の大使」の手で里帰りしたものです。

寄贈セレモニーでは、昨年度ドングリ集めに協力いただいた南会津町の田島保育園の園児も代表として苗木を受け取り、その後参加者の皆さんの手で丁寧に植樹されました。

なお、今年も園児たちが集めたドングリが鳥取県に託され、県内外や世代間で緑を受け継ぐ絆が育まれています。



元気に育つようお願いしながら作業を行いました

●家族で学ぶ「ファミリー緑の教室」開催

9月28日、南会津町の山村道場において南会津地方緑化推進委員会主催、南会津町緑化推進委員会後援による「ファミリー緑の教室」が開催され、8組20名の家族が参加しました。

これは、家族で自然に親しむことで「緑」の恩恵に感謝する心や愛護する心を育てることを目的に緑の募金を活用し開催しているもので、今年で26回目となります。

地元南会津町からの歓迎のあいさつの後、ゲームを取り入れた自然観察会や木の枝木工クラフト、器具を使った木登り「ツリーイング」（※表紙の写真参照）を行い森林の持つ様々な働きについて学びました。

参加者は、秋晴れの心地よい木漏れ日の中、体を動かし緑に触れることで緑の大切さを実感しているようでした。（森林林業部）

J A農産物品評会開催される!

11月3日にJ A会津みなみ農産物品評会が、平成25年度のJ A祭にあわせて開催されました（なお、只見地区については、支店新築工事のため今年の開催は見送られました）。田島地区、下郷地区、それぞれの会場には、農業者が丹精を込めて栽培した米や大豆、じゅうねん等の穀類、ハクサイやダイコン等の野菜類、リンゴ、カリン等の果樹類、リンドウ、キク等の花き類など、多くの出品がありました（田島：120点、下郷：183点）。



厳正な審査が行われました

当事務所では、11月2日に各会場において審査しました。その結果、最高賞の農林事務所長賞は、田島地区で児山アヤ子さんのサトイモが、下郷地区で渡部千恵子さんのサトイモが、それぞれ受賞されました。

いずれも品質がよく僅差の評価となりましたが、上位入賞された出品物は、それぞれの作物特性が十分に発揮されたものでした。

次年度も、さらに栽培技術に磨きをかけた多くの出品があることを御期待申し上げます。（農業振興普及部）

企画力向上研修会を開催

当事務所職員の企画力向上を目的として、10月23日に「企画力向上研修」を実施しました。講師から研修方法について講義を受けた後、20～40歳の年代毎に3チームに分かれ「南会津の農林業に担い手を増やすためには何が必要か」について討議を行いました。

その後に検討結果の発表を行いました。その後、「年間を通して農作業体験をする取組」や「鳥獣害被害にハンターを養成する取組」を提案した30歳代チームの企画が最優秀賞に輝きました。（総務部、企画部）

平成25年度食のものづくり応援事業

当事務所では地域産業6次化の推進と南会津地域の活性化を目的に、6次産業化に取り組む集落や団体を支援する「食のものづくり応援事業」を3地区で実施し、商品開発や食品加工技術の向上を図りました。



試作品のパッケージデザイン

たのせ地区(南会津町たのせふるさとづくり会)の活動を例に事業内容を紹介しますと、たのせ地区では、地元の伝統食である「ぜんびん」、「ぼんでいみそうず」をレトルト加工した商品開発を行うとともに、加熱殺菌による漬物等の長期保存技術等を外部講師から学ぶことで加工技術の向上に取り組みました。レトルト加工の「ぜんびん」や「ぼんでいみそうず」は、たのせ集落内にある直売所を代表するお土産品となることが期待され、長期保存技術は漬物など多様な加工品の賞味期限を大幅に延ばし、品質の向上及び品質管理の負担軽減につながることを期待されます。

今年度の食のものづくり応援事業は、6次産業化の推進と集落等の活性化の二つを同時に狙い実施しました。県では引き続き地域産業の6次化を積極的に推進して参りますので、食をテーマにした地域活性化に関心がありましたら、企画部までお気軽にお問い合わせください。(企画部)

今の福島を見に行くモニターツアーを開催

県は、県産農林水産物への風評の払拭を図るため、10月31日に「第5回今の福島を見に行くモニターツアー」を南会津地方において開催しました。

今回は、首都圏の女性ブロガーを対象とし、農産物の安全対策を実際に見て、ブログ等で発信していただくことで、県産農林水産物の安全性をPRすること目的としています。

参加者からは、「福島県産の農林水産物の検査態勢がしっかりしていたことに驚いた。」「おいしい福島県産の食べ物の魅力を発信していきたい」との感想が寄せられました。

県では、県産農林水産物への風評払拭のための取組みを継続してまいります。(企画部)



知っておきたい食品の表示③

—生鮮食品 豆類編—

前号に引き続き今号は豆類編です。

本誌第167号に記載したとおり生鮮食品には名称・原産地表示が義務付けられています。

1 表示内容

容器や包装に入れ密封されたものには、計量法第13条(密封した特定商品に係る特定物象量の標記)に基づき、**名称、原産地**に加えて、**内容量、販売者の氏名又は名称及び住所**も記載する必要があります。

2 表示方法

①袋詰めされた黒豆の例

名 称	黒豆
原産地	下郷町
内容量	500g
販売者	会津太郎 福島県南会津郡下郷町〇〇△△

②包装されていない場合のPOP表示例

名 称	黒豆
原産地	下郷町

(企画部)



イノシシの常識・非常識



近年イノシシ被害が増えています。被害防止のため、その特性を知る必要があります。

1 生息環境

非常に臆病なので、人に見つからないよう山間部に生息し、暗い時間に活動しますが、本来は平地を好む昼行性の動物です。藪や耕作放棄地は格好のすみかとなりますし、人が来ない農地は昼間も被害を受けます。

雪は苦手ですが、かつては東北全域に分布しており、極端な豪雪地域を除き、南会津郡でも生息可能と考えられます。

2 繁殖力

イノシシは豚の祖先です。繁殖力が強く、雌は毎年5頭程度の子を産みます。しかし、野生では栄養不足等により、5割以上は最初の冬を越せずに死亡します。

3 身体能力

1m以上ジャンプできますが、足のケガに慎重なので、またぐことができない障害物は迂回したり、くぐり抜けようとします。

毛皮は丈夫で、有刺鉄線や電気柵も平気です。電気柵は、唯一電気を通す鼻先や口が柵線に触れなければ効果がありません。

嗅覚が鋭く視力が弱いにもかかわらず、安全確認や餌探しは目視に頼る部分が大きいため、作物を見えなくすることで被害が防止で

きる場合もあります。

4 学習能力

学習能力はサル並で、臭い・音・光などを利用した忌避剤にはすぐ慣れます。また、仲間がワナにかかる姿を見たら、同じワナにはもうかかりません。

5 被害防止

イノシシ増加の背景には、耕作放棄地などを利用して生息域を平地に拡大したり、農作物をはじめとする集落周辺の餌により生存率が上昇した影響が考えられます。

まずは集落全体で、周辺の藪（耕作放棄地含む）や餌を撤去しましょう。それでも被害が出る場合には、電気柵等で広範囲を守った上で、しつこい個体を捕獲・駆除しましょう。
（農業振興普及部）

農林事務所からのお知らせ

農業短期大学校就農準備研修のお知らせ

農業に興味があり将来、就農を考えている方におすすめの研修が農業短期大学校で開催されます。

研修では就農後のイメージをより具体的にするため、農業全般にかかる基礎知識の学習及び農作業の体験を通し、農業への理解を深めることができます。

内容について詳しく知りたい方や参加御希望の方は下記まで御連絡ください。
（農業振興普及部）

《お問い合わせ先》

農業短期大学校(電話0248-42-4114)
南会津農林事務所(電話0241-62-5264)

新「エコファーマー」マークでPR

エコファーマーとは、土づくりと化学肥料・化学合成農薬の使用低減技術を一体的に導入する計画を立て、県知事の認定を受けた農業者です。

エコファーマーのPRのために、以前は全国

共通のマークが使用できましたが、福島県での使用は昨年3月で終了となったため、県内で統一したマークがない状況でした。

そこで、「環境と共生する農業」による県産農産物と東日本大震災からの復興・再生をPRするため、県独自のマークが作成されました。



このマークは、該当する農産物を生産、出荷される方であればどなたでも無料で使用できます。使用規定や申請書などについては、当事務所農業振興普及部経営支援課（電話0241-62-5264）までお問い合わせください。
（農業振興普及部）

米の全量全袋検査に御協力いただきありがとうございました。

今年の米の全量全袋検査は、農業者、JA、各集荷業者、各町等の御協力により、12月20日現在、南会津地方全体で313,842袋（南会津町:171,341袋/下郷町:77,808袋/只見町:64,693袋）の検査を実施しました。これは、管内検査目標数量の約103%です。

検査結果は、ほとんどが測定下限値を下回り、当地域の米が全て安全な米であることが改めて確認されました。検査を終えた米袋には、安全の証である検査済みラベルが貼られ、安心感をもって市場等に出荷されます。

なお、全量全袋検査及び農産物検査（等級検査）が終了した袋（30kg）から小分けした精米・玄米販売では、精米袋用安全ラベルが貼られて販売されます。

本検査は、消費者、生産者の皆様に安心して米を食べていただくため、出荷する米だけでなく、生産者の皆様が直接販売する米、自分で食べる米、親戚へ送る米など、全ての米を対象に実施しています。

※全量全袋検査結果は、ふくしまの恵み安全対策協議会のホームページで随時公表しております。最新の情報はそちらで御確認ください。
（農業振興普及部）

お問い合わせはこちら

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1
ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/morin-minamiaidu/>
電話 0241-62-5252 FAX 0241-62-5256



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。